

第2回江北町における義務教育のあり方検討会報告

1. 第2回検討会要点

義務教育学校の導入はメリットが大きい

○理由

①中一（小中）ギャップの解消

- ・多久市においては小中ギャップが見られなくなった
- ・聖学園での課題：学力向上、中一での不登校、中学校での非行が多い
→全国的に学力向上・問題行動の減少の成果がある小中一貫教育を導入
→導入後、問題行動が減少し、学習に集中できる環境が築けた
また、小学生が中学生への憧れ・目標となる

②小学校高学年における教科担任制

- 国の指針：少人数学級への加配が教科担任制へと振り返られる
- 県の指針：国の動向を踏まえ、加配措置を行っていく
→義務教育学校とすることで教職員の乗り入れが容易となり、さらに教科担任制を推進することができる

③学力向上につながる

- ・①で記述したとおり学習に集中できる環境となる
→学力向上につながった（聖学園、東原庁舎東部校で実績あり）
さらに県立・私立中学校への転出者についても減少（聖学園において）

これらのことから、義務教育学校は児童生徒の9年間の学びに有効的であると考えられる

※主な発言者

船木元大町教育長（義務教育学校創設・運営）

富增多久市立東原庁舎東部校長

長尾学校教育課参事